
社会福祉法人 三井記念病院
公的医療機関等2025プラン

平成29年 10月策定

目次

1.	社会福祉法人 三井記念病院 基本情報	P 3
2.	東京都 区中央部の現状	P 4
3.	東京の将来の医療～ランドデザイン～	P 9
4.	三井記念病院の現状	P 10
5.	三井記念病院における課題	P 15
6.	今後の方針について	P 16
7.	具体的なプラン	P 17

社会福祉法人 三井記念病院 基本情報

- 医療機関名・開設主体
社会福祉法人 三井記念病院
- 所在地
東京都千代田区神田和泉町1番地
- 許可・稼働病床数
一般床 482床 (ICU7床・CCU7床・HCU21床)
- 診療科目
総合内科・神経内科・内分泌内科・膠原病リウマチ内科・糖尿病代謝内科・血液内科・腎臓内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・一般外科・乳腺内分泌外科・呼吸器外科・心臓血管外科・整形外科・脳神経外科・眼科・小児科・精神科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・耳鼻咽喉科・放射線診断科・放射線治療科・歯科・歯科口腔外科・緩和ケア科・病理診断科・麻酔科・臨床腫瘍科 (腫瘍内科)
- 職員数 (常勤)

医師	: 182人
看護師	: 556人
専門職	: 187人
事務職員他	: 142人

東京都 区中央部の現状 (平成28年7月策定 東京都地域医療構想より抜粋) 2025年における4機能ごとの流入の状況

高度急性期機能

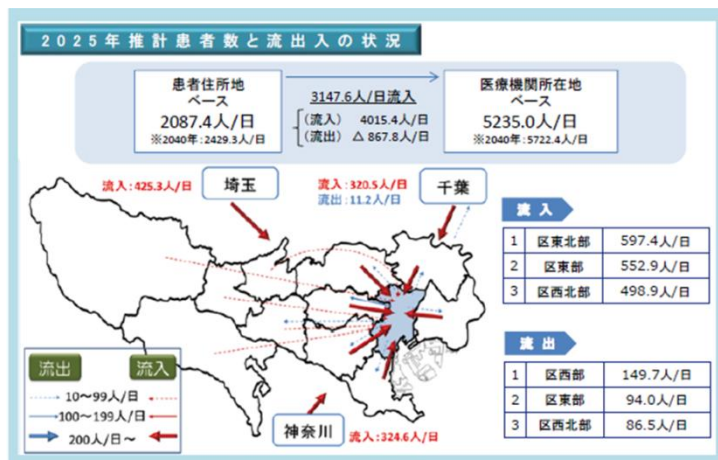
他の医療圏からの流入が多く、2025年には1623人/日の流入が予想される。流入は隣接医療圏（特に区西北部・区東北部・区東部）が多いが、周辺県からの流入も流入全体の25%強を占めている



自構想区域内の完結率 57.9%

急性期機能

状況はほぼ高度急性期と同様で他の医療圏からの流入が多い。2025年の予測では3,147人/日の流入が予想されている。他県からの流入に関しても高度急性期と同様で26%強を占める。



自構想区域内の完結率 58.4%

東京都 区中央部の現状 (平成28年7月策定 東京都地域医療構想より抜粋) 2025年における4機能ごとの流入の状況

回復期機能

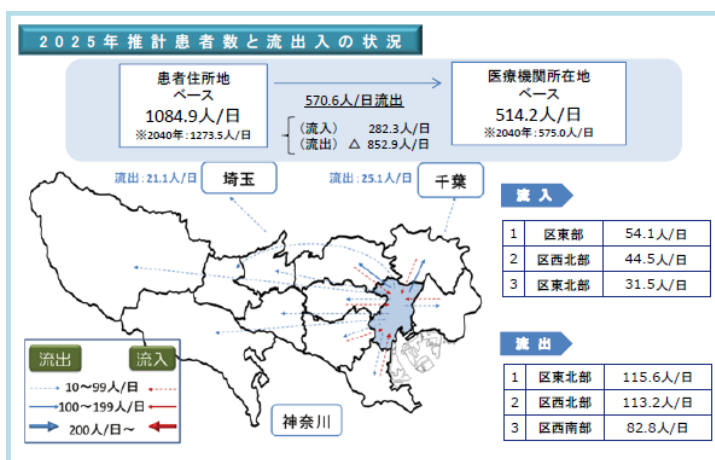
回復期機能に関しても流入の方が多(1,482人/日)が、流出も多く、自構想区域圏での完結率は50%を割っている。ただし他県からの流入に関しては26%と高度急性期・急性期機能と変わらない。



自構想区域内の完結率 42.3%

慢性期機能

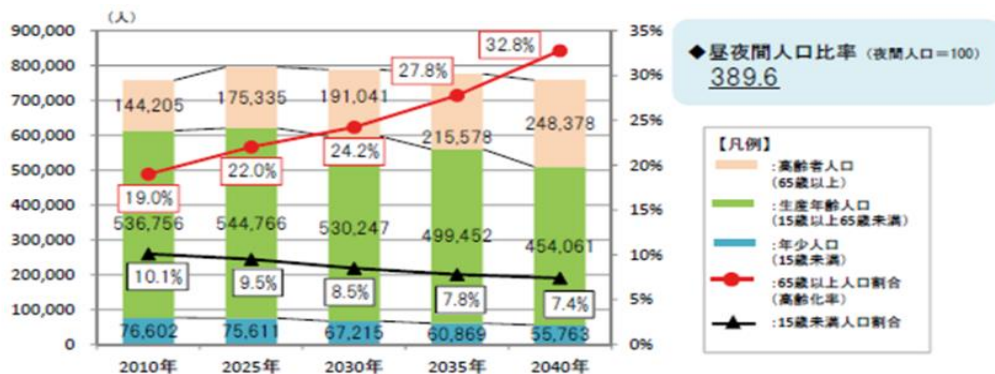
慢性期機能では他医療構想圏への流出が多く、完結率も21%強と大幅に下がる。他県からの流入はほとんどなく、むしろ流出している。



自構想区域内の完結率 21.4%

東京都 区中央部の現状 人口・高齢化率推移

人口・高齢化率の推移（区中央部）

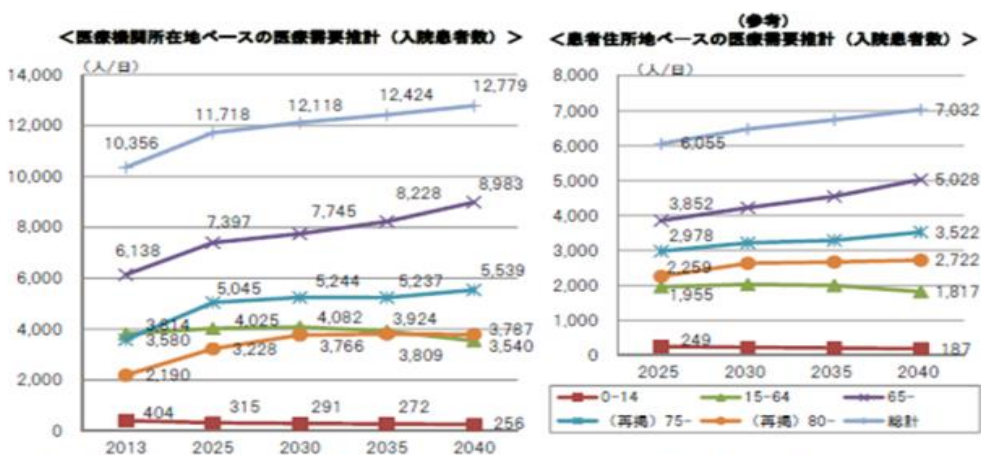


◆高齢者のみ世帯の状況（2010年）

高齢者単独世帯数（全世界帯に占める割合）	40,167世帯（9.9%）
高齢者夫婦世帯数※（全世界帯に占める割合）	23,754世帯（5.8%）

※夫65歳以上、妻60歳以上

推計患者数（区中央部）

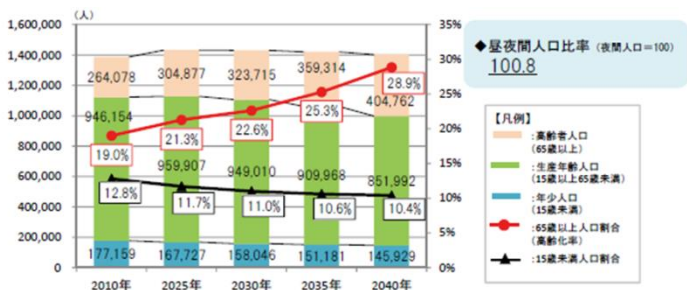


区中央部では2025年までは人口が増加し続け、2025年以降に関しても大幅な人口の減少は予想されていない。

ただし高齢化率に関しては2025年以降急激に進むとされており、今後30年間で医療需要はむしろ増加することが予測される

東京都 区東部・区東北部の現状 人口・高齢化率推移

参考：人口・高齢化率の推移（区東部）

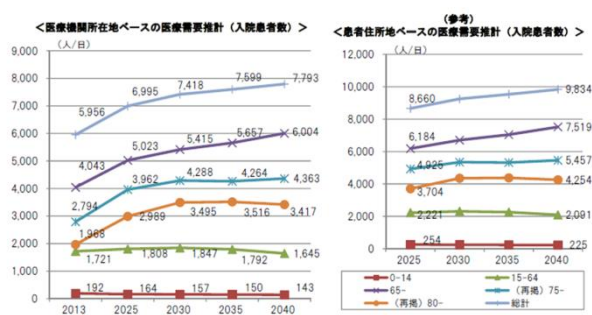


◆高齢者のみ世帯の状況（2010年）

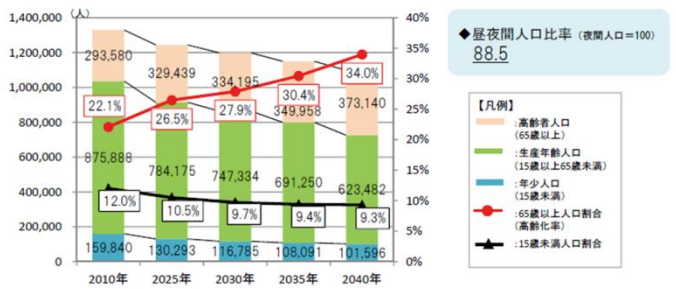
高齢者単独世帯数（全世帯に占める割合）	58,379世帯（9.1%）
高齢者夫婦世帯数※（全世帯に占める割合）	45,692世帯（7.2%）

※夫65歳以上、妻60歳以上

参考：推計患者数（区東部）



参考：人口・高齢化率推移（区東北部）

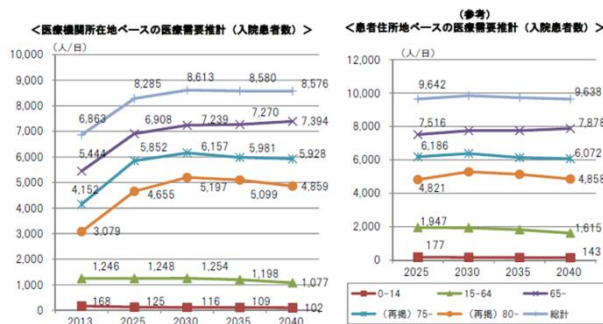


◆高齢者のみ世帯の状況（2010年）

高齢者単独世帯数（全世帯に占める割合）	68,267世帯（11.2%）
高齢者夫婦世帯数※（全世帯に占める割合）	50,354世帯（8.3%）

※夫65歳以上、妻60歳以上

参考：推計患者数（区東北部）



当院の場合、区中央部の患者だけでなく、区東部、区東北部の患者も多い。この二つの二次医療圏からの患者だけで全入院患者の37%（区中央部の入院患者は32%）を占めている。その為この二つの二次医療圏（構想区域）についても人口や推計患者数を確認した。

区東部においては人口動態や高齢化率の動きは区中央部と同様で、医療需要は拡大傾向にある。区東北部の場合、人口は今後減少していくが、高齢化率が高いことから、医療需要に関しては拡大するものと思われる。

東京都 区中央部の現状 特徴と課題

区中央部の特徴と課題

- 周辺も含めて2025年以降も医療需要が拡大する地域である。
- 高度医療が集積する地域であり、特に高度急性期医療に関しては全国から流入する患者がいる一方で、地域住民に向けた医療も混在しており、その二つの機能は分けて考える必要がある。
- 区中央部単独では地域完結率が低いが、隣接区域まで含めれば回復期以上の完結率は80%を超えている。
- 慢性期機能の病床数が少ない。この機能に関しては隣接区域を含めても完結率が60%を切っている
- 患者を住み慣れた地域に戻せるような仕組み、在宅医療の整備や医療機関同士の連携強化が必要。
- 地代や人件費が全国でもトップレベルに高く、病院経営には高収益が求められる地域である。

東京の将来の医療～グランドデザイン～

東京の将来の医療～グランドデザイン～

誰もが質の高い医療を受けられ、安心して暮らせる「東京」

4つの基本目標

- I. 高度医療・先進的な医療提供体制の将来にわたる進展
～大学病院等が集積する東京の「強み」を生かした、医療水準のさらなる向上～
- II. 東京の特性を生かした切れ目のない医療連携システムの構築
～高度急性期から在宅療養に至るまで、東京の医療資源を最大限活用した医療連携の推進～
- III. 地域包括ケアシステムにおける治し、支える医療の充実
～誰もが住み慣れた地域で生活を継続できるよう、地域全体で治し、支える「地域完結型」医療の確立～
- IV. 安心して暮らせる東京を築く人材の確保・育成
～医療水準の高度化に資する人材や高齢社会を支える人材が活躍する社会の実現～

社会福祉法人三井記念病院の現状

医療理念

三井記念病院は患者の生命を体制にし、患者とともに生きる医療を行い、よりよい社会の為に貢献します。

基本方針

1. 私達は患者の生命の力が病気からの治癒力であり、患者が医療において主役であることを認識します
2. 私達は患者の良いガイド役となり、患者を含めた良好なチーム医療を推進します
3. 私達は患者の為に医学的根拠に基づいた高度で良質な医療を行います
4. 私達は地域に根ざす医療の為に地域との連携を推進します
5. 私達は安全、安心で信頼される医療を担う時代の医療人を育成します。
6. 私達は良質で信頼される医療において本邦でトップクラスの医療機関を目指します

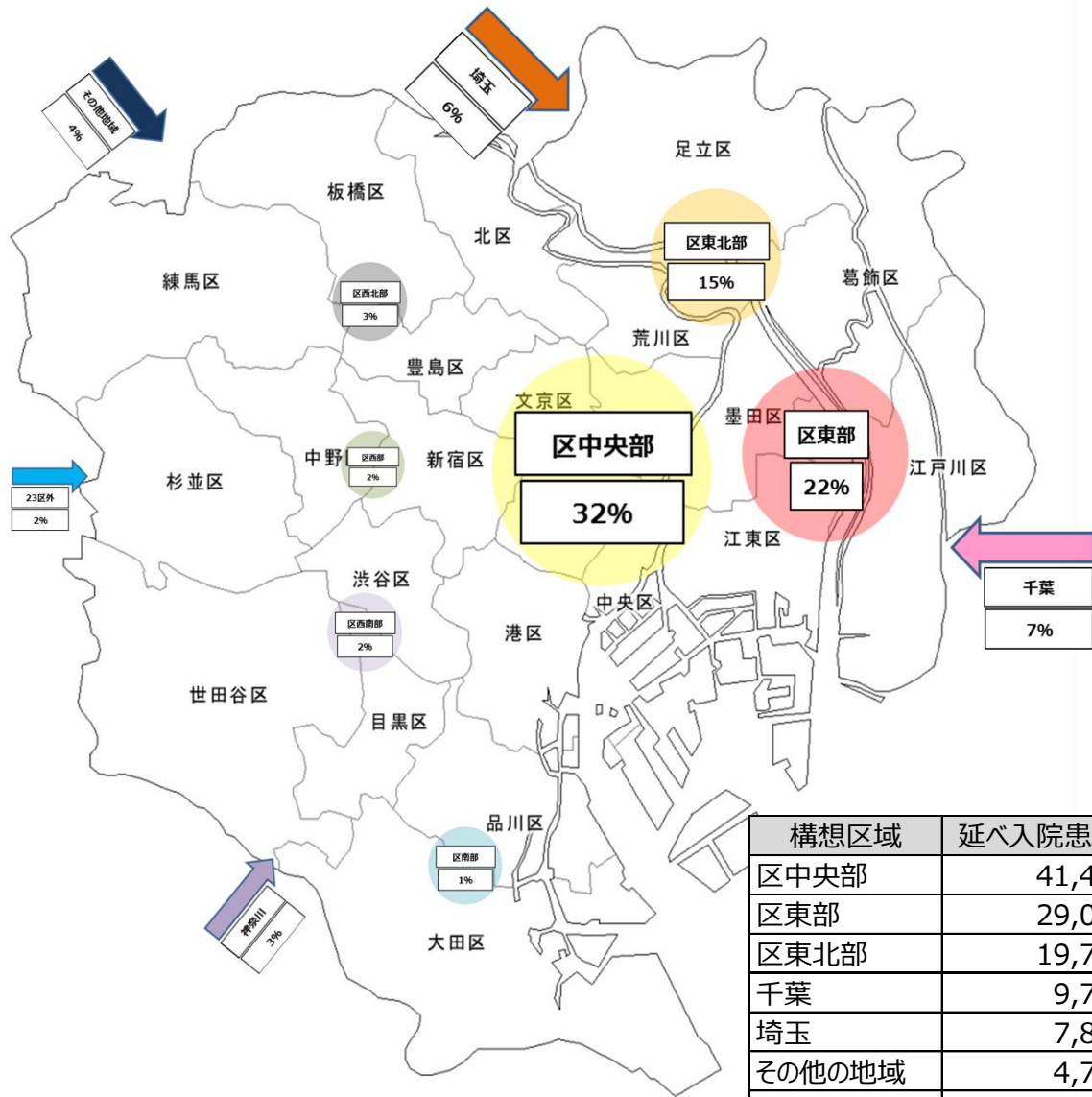
医療機能

高度急性期と急性期を中心とした急性期病院

- 一般病棟入院基本料（7 対1 入院基本料）
- 特定集中治療室管理料3
- ハイケアユニット入院医療管理料1
- 地域医療支援病院
- 東京都災害拠点病院
- 東京都がん連携拠点病院
- 東京都CCUネットワーク加盟施設
- 地域連携型認知症疾患医療センター

社会福祉法人三井記念病院の現状②

2016年度地域別入院患者



構想区域	延べ入院患者	比率
区中央部	41,489	32%
区東部	29,017	22%
区東北部	19,792	15%
千葉	9,749	7%
埼玉	7,846	6%
その他の地域	4,725	4%
区西北部	4,301	3%
神奈川	3,659	3%
23区外	3,000	2%
区西部	2,636	2%
区西南部	2,608	2%
区南部	1,630	1%
合計	130,452	100%

当院においては自医療圏内（区中央部）の患者は3割強に過ぎず、他医療圏からの流入が多い。特に区東部、区東北部からが多く、双方の医療圏を合計すると区中央部よりも多い患者が当院を利用していることになる。

社会福祉法人三井記念病院の現状

5疾病への対応-①

がん

消化器・呼吸器・泌尿器・乳腺・婦人科・血液内科の領域におけるがん治療を実施手術を中心に化学療法（外来含む）や放射線治療にも対応。

主要領域の悪性腫瘍疾患手術実績（2016年度）

診療科	術式名	件数
呼吸器	肺悪性腫瘍手術	85
消化器	胃切除術	14
消化器	結腸切除術	64
乳腺	乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術	98
乳腺	乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術	94
泌尿器	腎（尿管）悪性腫瘍手術	46
泌尿器	前立腺悪性腫瘍手術	26
婦人科	子宮悪性腫瘍手術	10

脳卒中

神経内科・脳神経外科にて対応。緊急手術やT-PAに関しては24時間対応が可能となっている

脳血管障害患者受入 161人
T-PA実績 4件

脳卒中関連手術実績（2016年度）

診療科	術式名	件数
脳神経外科	頭蓋内血腫除去術 硬膜下のもの	3
脳神経外科	脳血管内手術（1箇所）	3
脳神経外科	頭蓋内血腫除去術 脳内のもの	2
脳神経外科	穿頭脳室ドレナージ術	2
脳神経外科	脳動脈瘤頸部クリッピング（2箇所以上）	1

急性心筋梗塞

循環器内科・心臓血管外科にて対応。東京都のCCUネットワークならびに急性大動脈ネットワークに参加し救急患者の受け入れを実施。心疾患専用の集中治療室あり。

心疾患関連手術（カテ）実績（2016年度）

診療科	術式名	件数
循環器内科	経皮的冠動脈ステント留置術	311
循環器内科	経皮的冠動脈形成術	52
心臓血管外科	冠動脈、大動脈バイパス移植術	92
心臓血管外科	大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む）	44

社会福祉法人三井記念病院の現状

5疾病への対応-②

糖尿病

糖尿病代謝内科が対応。急性期病院として、糖尿病を持つ急性期患者の受け入れの際の全身管理などを受け持つ。また糖尿病予防や糖尿病患者の透析移行への予防なども実施

精神疾患

精神疾患単独での入院は受け入れていないが、急性期疾患をもつ精神疾患患者が入院の際には診療を行っている。特に高齢化が進んだことで増加している認知症疾患に関しては、今年度より認知症ケア対応チームを立ち上げ、全病院的に取り組んでいる。

社会福祉法人三井記念病院の現状

5事業への対応

救急医療

二次救急病院として年間三千台弱の救急車を受け入れている。心疾患に関しては三次救急レベルの患者にも対応している

救急車受け入れ実績（2016年度）

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
救急車受入台数	2,808	3,388	3,007	2,758	2,723

災害時の医療

2010年に東京都の災害拠点病院に指定されており、それ以後災害に関する備えを強化して、災害時の医療機能の強化を図っている。現在は訓練計画や災害医療体制の見直しを進めており、BCP（事業継続計画）に関しても2017年度中に再策定する予定。

へき地医療

当院ではへき地医療には関わっていない

周産期医療

産婦人科にて年間200程度の分娩を実施。また緊急帝王切開なども受け入れている

分娩と帝王切開件数（2016年度）

診療科	術式名	件数
産婦人科	帝王切開術（緊急）	30
産婦人科	分娩	235

小児疾患

小児に関しては耳鼻咽喉科・整形・皮膚科・消化器外科にて受け入れており、当院の小児科に関してはそのフォローを実施している。

社会福祉法人三井記念病院における課題

- 区中央部単独で見ると高度医療機関が集積した地域であり、過剰なまでの医療機能を持っている地域だが、流入患者が非常に多い地域であり、構想区域単独で医療機能の検討をしても意味がない。そのため都内の他の構想区域の状況や隣接県の動向を確認したうえで、病床機能や規模を検討していく必要がある。
- 地域の特性として地代や人件費が高い地域であるため、それを考慮して病床機能を検討する必要がある。
- 区中央部は周辺区域を含めても慢性期病床が不足している地域である。急性期を担う病院として急性期を脱した患者が、必要な機能を持つ病院に転院できるように退院調整に力を入れていくとともに、病病連携なども推進していく必要がある。
- 東京都のグランドデザインでは「地域完結型」の医療の提供が目標として掲げられているため、在宅診療への移行の手助けや、訪問看護や介護関係者との連携、在宅からの緊急時の受け入れなどを強化する必要がある。
- 当院周辺地域では、高齢化率に関しては大幅に増加する予想がなされている。院内での認知症ケアの強化、退院時調整における老々介護や独居の問題などについても検討しておく必要があるとともに、地域として精神疾患にどのように取り組むべきか地域内での連携を強化する必要がある。
- 東京都における大規模災害、特に大地震に関しては近年そのリスクが高まっていると指摘されているが、対策に関してはまだまだ不十分な点があるため、その強化が必要である。

①地域において今後担うべき役割

- 区中央部ならびに周辺部においては医療需要が増加すること、高度急性期、急性期に関しては流出よりも流入の方が多いことから、引き続き現在の医療機能、病床数を維持する。
- 地域医療支援病院・二次救急病院として、今後とも地域の医療機関からの緊急時の患者受入を強化していく
- 循環器に関してはCCUネットワークや急性大動脈ネットワークを通じて、重篤な緊急患者の受け入れの機能を引き続き維持していく
- 認知症疾患患者が増加傾向にあるため、認知症疾患を持つ患者の身体的な急性期医療を担う機能の強化をしていく。

②今後持つべき病床機能

- がん診療を行う病院として、必要性の高まっている緩和ケア病棟などの設置については将来的に検討する。

③その他見直すべき点

- ①で記載した通り、現在の医療機能と規模は維持とするが、急性期医療における効率性が良化しており、平均在院日数短縮が要因となって病床稼働率が減少していることから、将来的には病床規模の適正化に関して検討する必要がある。

社会福祉法人三井記念病院 具体的なプラン①

① 4機能ごとの病床の在り方について

区中央部においては医療需要の拡大が見込まれているため現状維持とする。

	現在 (平成29年度病床機能報告予定)		将来 (2025年度)
高度急性期	306	→	306
急性期	176		176
回復期	0		0
慢性期	0		0
合計	482		482

病床機能区分に関しては明確な定義が無いため、当院独自の基準で分類したが、今後定義が明示された場合は見直しを行う。

また現時点では病床機能変更の予定はないものの、最低年1回は周辺の状況や政策などの動向、自院の稼働率等を見て再検討を行う。

当院の病床機能区分に関して

当院では以下の視点から病床機能区分を検討した。

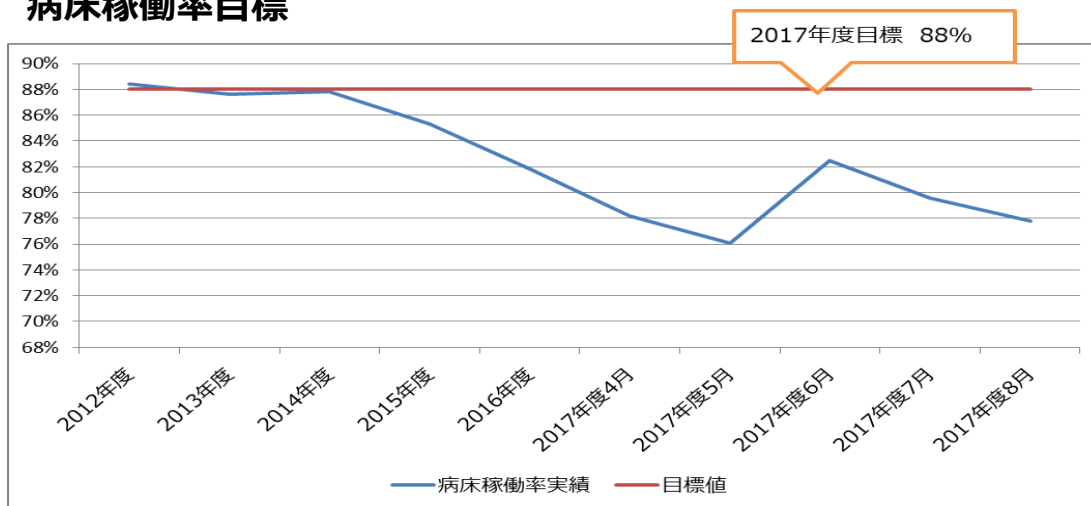
- ・診療報酬上の看護配置（集中治療室管理加算・ハイケアユニット・7対1看護）
- ・患者別日当点の比率（基本料除く）
- ・退院患者の手術率（手術＝保険上手術と分類され、手技料5000点以上の物）
- ・病棟別 医療・看護必要度
- ・救急医療管理加算の算定状況

② 診療科の見直しについて

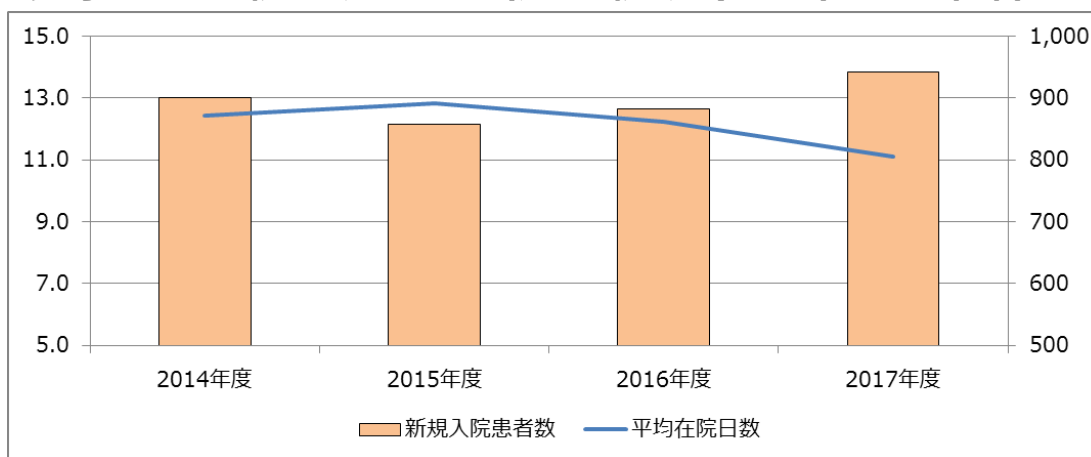
診療科の新設、統合や廃止については実施しないが、必ずしも急性期疾患が多くない診療については規模の縮小を進め、リソースを急性期医療に集中する

社会福祉法人三井記念病院 具体的なプラン②

③ その他の数値目標に関して 病床稼働率目標



参考：平均在院日数と月平均新規入院数（短期滞在等手術料Ⅲ等を除外）

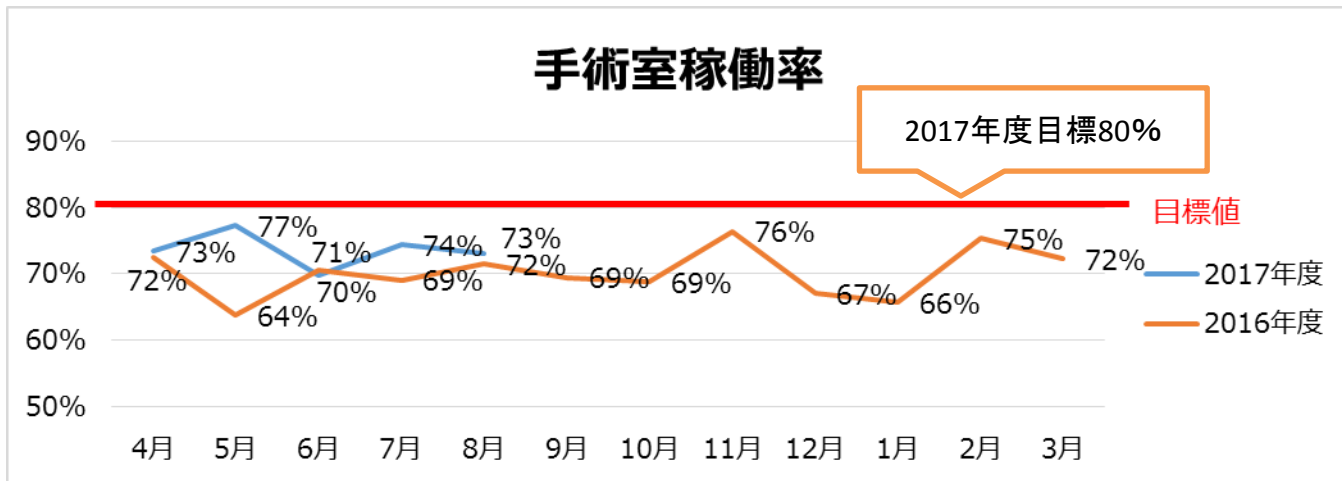


2014年度～2016年度は年間累計の月平均値
2017年度は4～8月累計の月平均値

2017年度の稼働率目標は88%だが、現時点では大きくかい離している。一部診療科で予定外の医師の退職等があり、目標を大きく下回っている。また効率化が進んで平均在院日数が約10%減少したことも影響している。（ただし新規入院数は増加しており、医療需要は増加している）
現在医師の新規採用などを行い、立て直しを図っている。

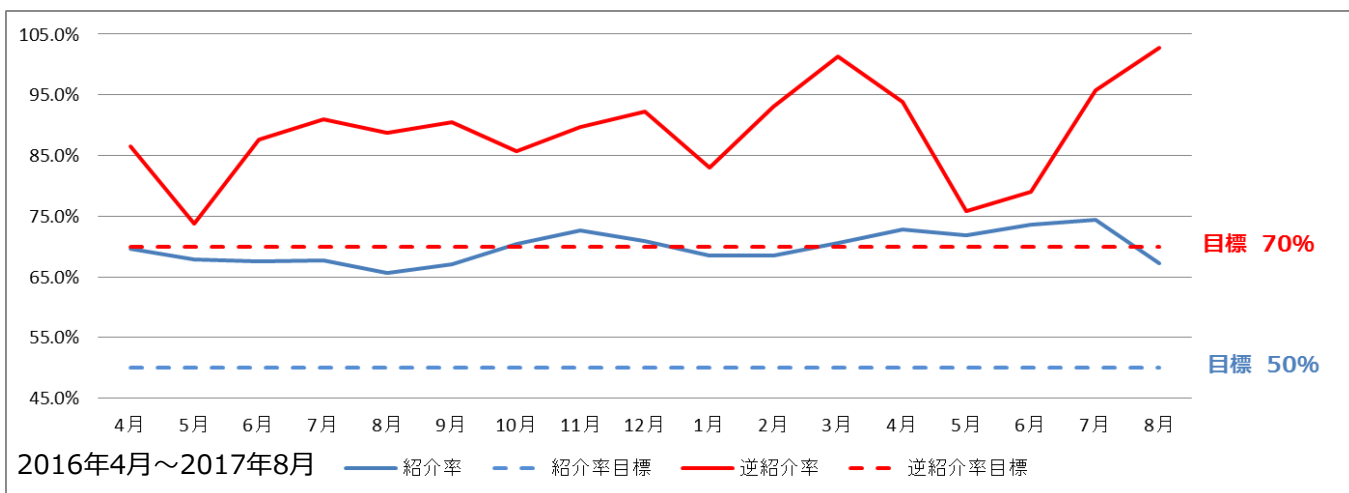
社会福祉法人三井記念病院 具体的なプラン③

手術室稼働率目標



2017年度に手術室稼働率の目標を80%に定め、年度内の達成を目標としている。外科系診療科による手術件数が増加していることから、稼働率は向上している。今後は手術枠の見直し等で効率化を図る。

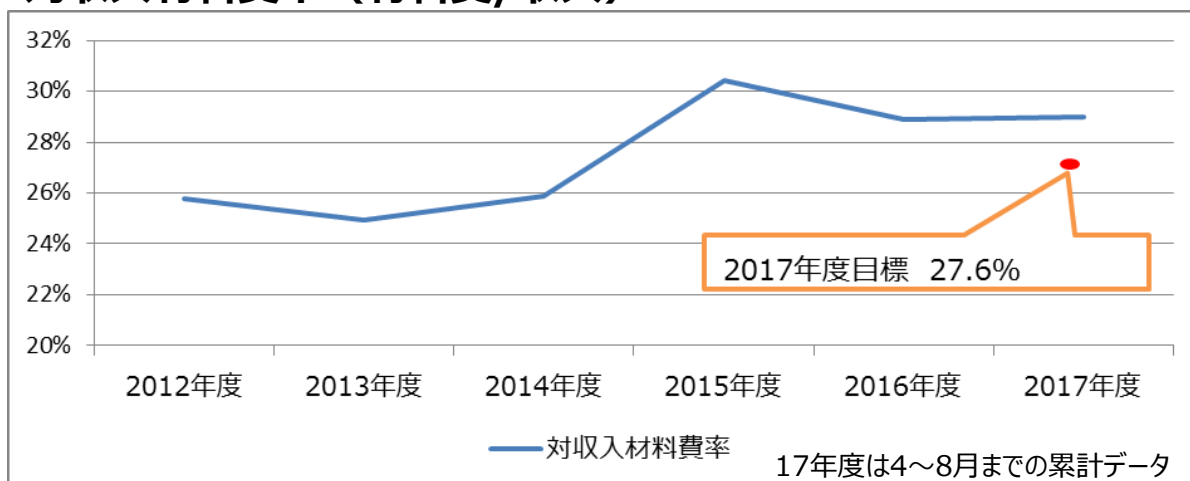
紹介・逆紹介率（算出方法：地域医療支援病院要件（紹介率・逆紹介率）と同）



紹介・逆紹介率は地域支援病院の「紹介率50%・逆紹介率70%」を毎月の目標数値としているが、現在はその数値を大きく超えている状況である。今後は東京都グランドデザインの方針に基づき、更なる紹介・逆紹介率向上の為、目標を引き上げることを検討中。

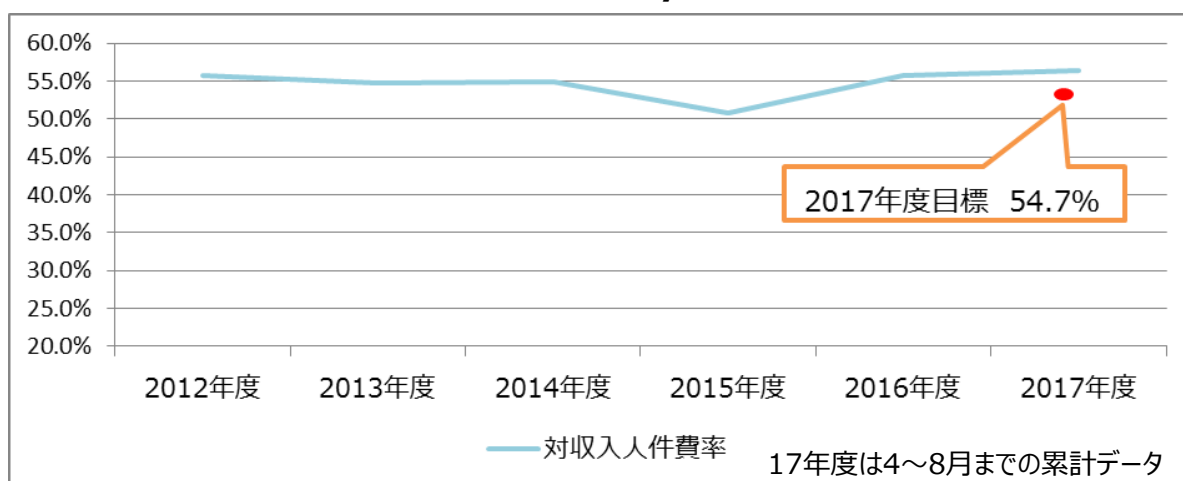
社会福祉法人三井記念病院 具体的なプラン④

対収入材料費率（材料費/収入）



当院の材料費率は2015年度にC型肝炎新薬の使用量が大幅に増加したことから対収入材料費率は大きくUPしている。2017年度は高額新薬の使用が減少する予測で計画したが、C型肝炎のほかに肺がんの新薬の使用量も増加しており、計画を大きく上回っている。ただしそれらの要素を除いた場合の対収入材料費率は27.75%と微増である。材料見直しやコスト削減などの対策を実施中。

対収入人件費率（人件費+委託費/収入）



人件費は予算通りだが、医師不足による稼働の減少から収入が減少しており、人件費率は目標を上回っている。その為人件費対策ではなく、稼働対策や収入増加策を検討、実施している。

三井記念病院今後の計画に関して

当院が所属する構想区域である区中央部は大規模で高度な医療機関が集積する全国でも特異な存在であり、非常に流入する患者が多いことから区中央部単独で医療構想を考えるのは難しい状況である。その為今後は隣接区域（特に区東部や区東北部）または隣接県の状況などを鑑みながら、当院の機能について引き続き検討していきたい。

診療科に関しても急性期医療への特化を進めるために、急性期疾患が多くない診療科に関しては規模の見直しを行い、その分のリソースを急性期医療中心の診療科に振り直すことを計画中である。

また地域医療構想以外においても診療報酬改定や消費税増税、医師の働き方改革に関する問題など、今後の病院経営にはハードルが多い。コスト削減や無駄の排除などで健全な病院経営を続けられるように努力していきたい。